



羅 津

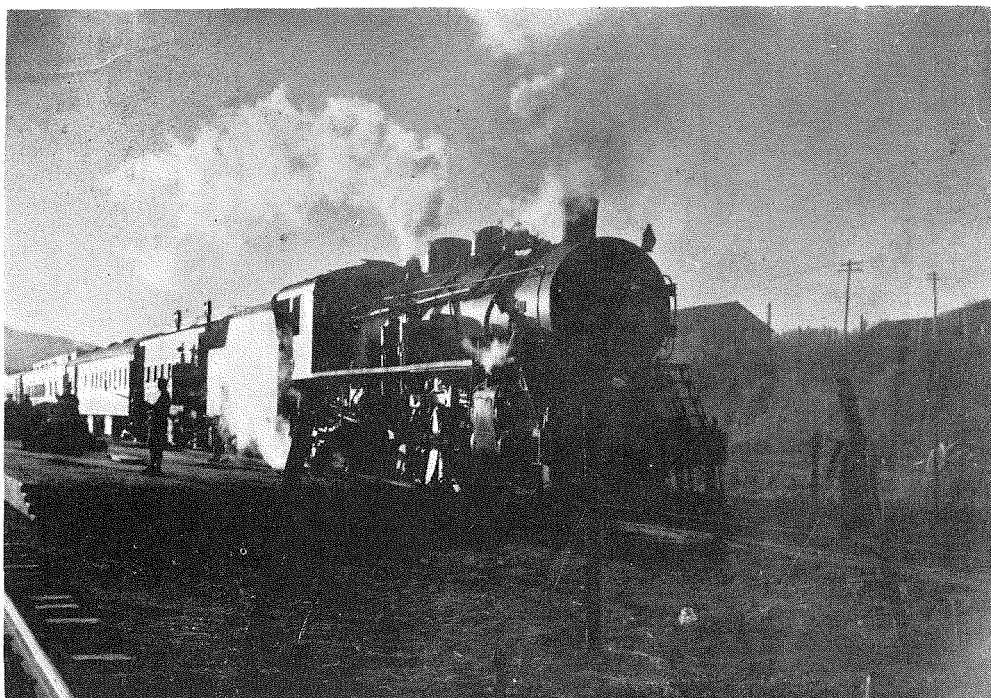
羅津港並に 雄羅鐵道建 設の概要

我が帝國の大陸政策遂行上最重要なる交通幹線として多年其の實現を待望せられ昭和8年工を起して昭和10年11月1日既に一部を竣功し現在營業中にして全部の完成は12年度末の豫定である。

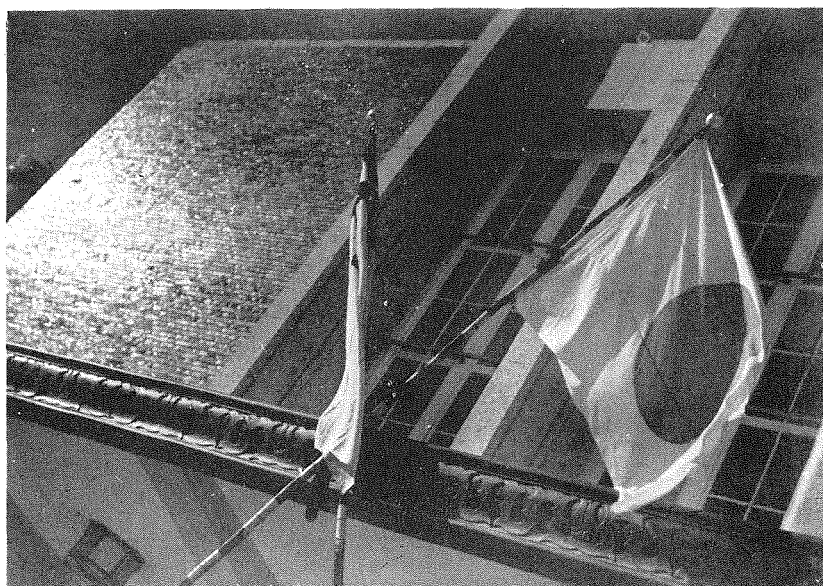
羅津港は水深く波靜にして稀に見る良港にして築港工事は第一期として繫船岸壁延長2,370米を有する3箇の埠頭及總延長570米の防波堤を包容する船溜場及護岸を築造し1箇年300萬噸の貨物を吞吐する施設を爲せり。

而して築港工事に伴ひ雄基羅津を連繫する雄羅鐵道は延長15.2浬にして其の延長大ならずと雖其の間に介在せる雄羅隧道は延長3,850米にして實に鮮滿第一の長大隧道にして而も全山硬質の花崗岩より成り之が掘鑿も亦容易ならざりしも起工後僅に2年有4箇月にして完成せり

(南滿洲鐵道株式會社建設局工事課・山田好一)



連絡列車



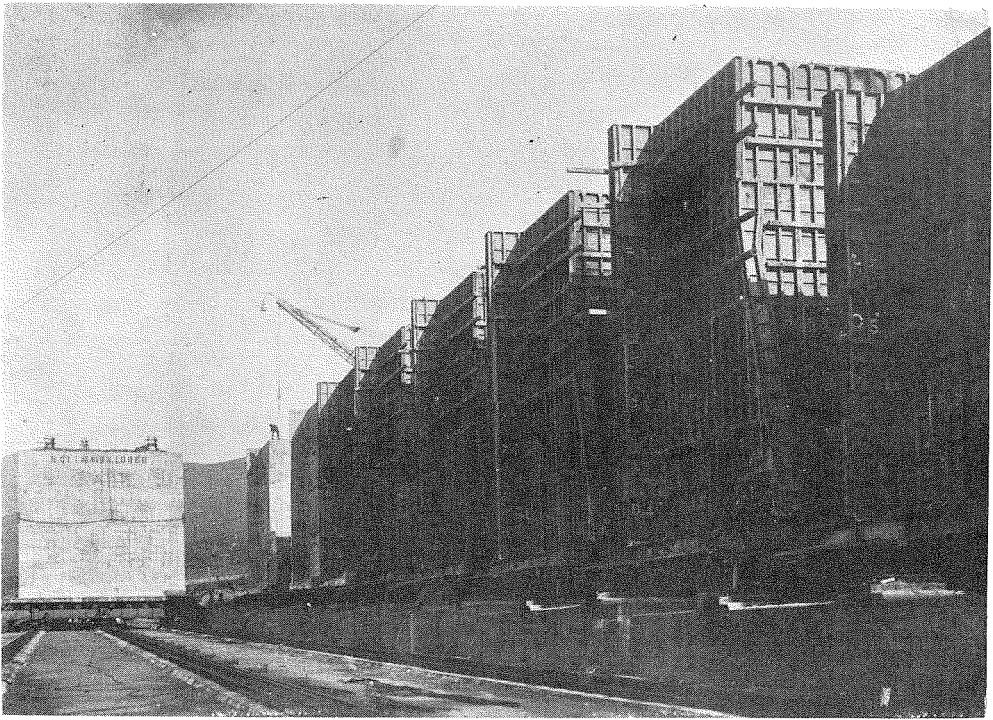
羅
津
驛

羅津の街

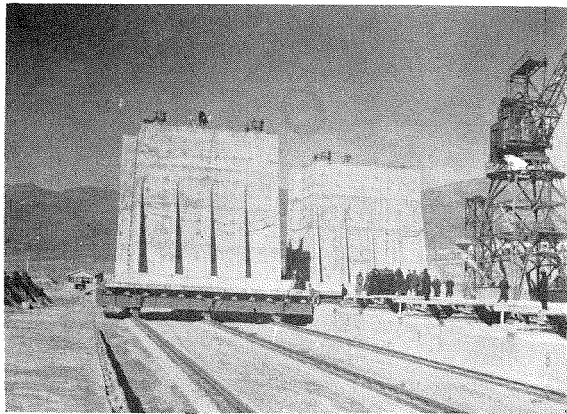


連絡船





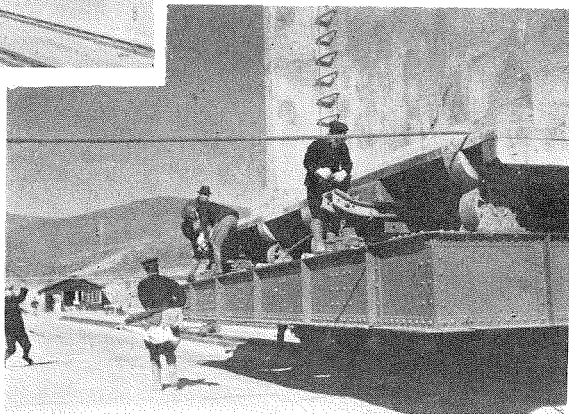
ケーソン・ヤード



— 2 —

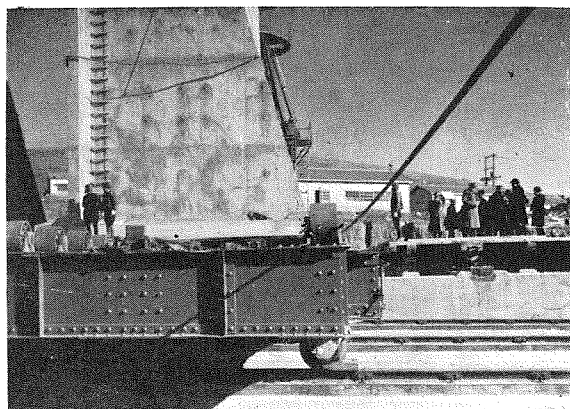
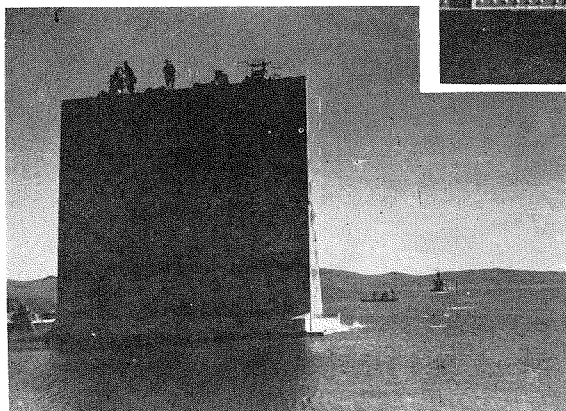
— 1 —

ケーソンの進水



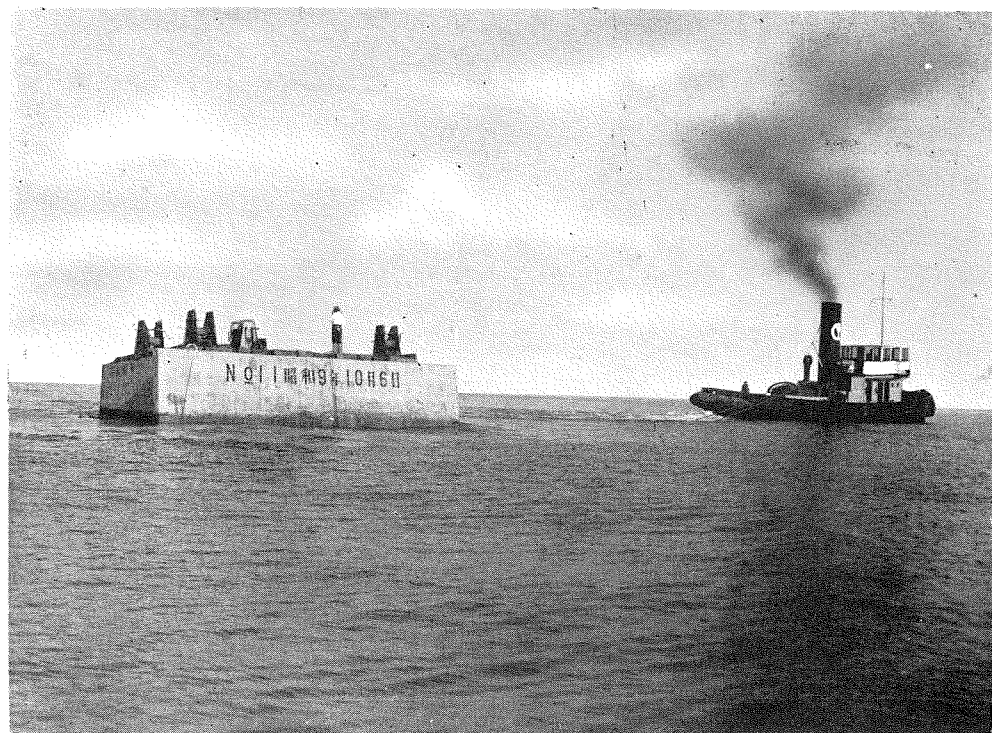
ケーソンの進水

— 4 —

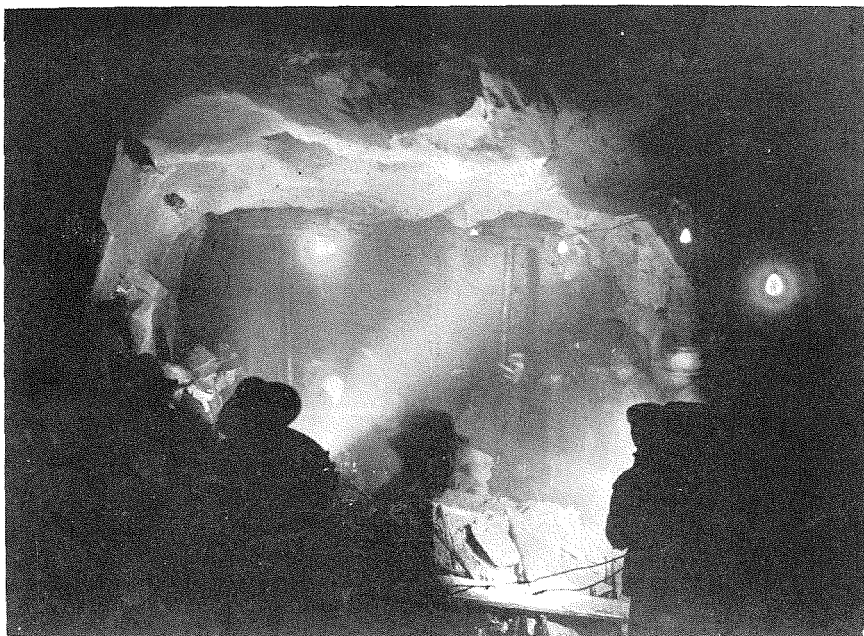


— 3 —

ケーソンの曳航。



雄羅隧道内部掘鑿状況



工事着手當時の羅津港



竣
成
せ
る
雄
羅
線(雄羅隧道)



竣 成 せ る 羅 津。

